

本推進協ニュースNo.101は以下の内容を御報告します。

- 1 令和元年度第2回理事会の報告
- 2 容器包装3R推進のための自主行動計画2020フォローアップ報告  
(2018年度実績)
- 3 3R改善事例集第13版の完成
- 4 エコプロ2019への出展
- 5 中国の古紙輸入規制の影響

## 1 令和元年度 第2回理事会の報告

令和元年度第2回理事会が令和元年11月25日に開催されて、1)算定係数及び単価・容り制度見直し関連動向、2)新会員募集／ご加入のお願いについて、3)自主行動計画2020(2016～2020年度)2018年度(3年目)フォローアップ報告(案)、3R改善事例集第13版(案)、紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」(更新)、4)紙識別マーク清刷販売価格(原版収入)値上げの件を報告・討議を行い、各議案について承認されました。以下にその概要を報告いたします。

### 議題1 算定係数及び単価・容り制度見直し関連動向

- ・令和2年度の算定係数、再商品化実施委託単価及び令和元年度拠出委託単価を報告しました。本年度は産構審に向けて変更があったため、単価計算根拠は掲載していないことを説明しました。
- ・令和元年10月31日に開催された産構審で、識別表示のサイズ縮小に関する討議が実施されました。当推進協議会としては、事前に容り法改正対策委員会(書類審議)で確認の上で、下記の通り発言したことを報告しました。

【発言内容】『スチール缶、アルミ缶、PET製容器の識別表示を紙製容器包装の識別表示と寸法を同一にするということについては、現在、当推進協議会でも、識別表示の大きさについては、特に問題無いと考えていますので賛同させていただきます。尚、紙製容器包装の識別表示につきましては、前回の合同審議会において、古紙ルート「雑がみ」分類で収集を実施する市町村の拡大及び紙製容器包装の回収量拡大のために、紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言しています。「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」における分別排出の考えられる施策の例として、「市民にわかりやすいプラスチック製容器包装の識別表示や紙製容器包装の回収量の拡大の観点からの識別表示の検討を引き続

き行うべきである。」と課題として取り上げられていますので、引き続きご検討をよろしくお願いたします。』

- ・レジ袋有料化に関しましては、11月1日の産構審と中環審の合同会議にて検討が行われ、一部を対象から外して令和2年7月1日に施行の予定となったことを報告しました。

#### 議題2 新会員募集／ご加入のお願いについて（第1号議案）

- ・現在、新たな会員募集活動を行っておりますが、困難な状況であります。引き続き、新規会員加入への御協力をお願いし、会員候補の説明をしました。
- ・第1号議案について特段異議なく、承認されました。

#### 議題3 自主行動計画2020（2016～2020年度）（第2号議案）

- 1) 2018年度のリデュース実績は11.0%削減（前年度11.2削減）しました。
    - ・売上高原単位でリデュースを計算しますと、2018年度は18.7%削減（前年度18.2%削減）しました。
  - 2) 紙製容器包装の回収率調査結果
    - ・2018年度紙製容器包装の回収率は、27.0%（前年度24.5%）となりました。
  - 3) 3R改善事例集第13版（案）
    - ・今年度の3R改善事例集第13版の内容及び発行予定を報告しました。
    - ・令和元年度の事例のほかに、平成28年度から平成30年度の事例をまとめて掲載することを報告しました。
  - 4) 紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」（更新）
    - ・従来より提示している「提言」を最新資料にて更新して作成したことを報告しました。
- 第2号議案について特段異議なく、フォローアップ報告及び3R改善事例集第13版、「提言」の更新について承認されました。

#### 議題4 紙識別マーク清刷販売価格（原版収入）値上げの件

- ・紙識別マーク清刷販売価格に関して、振込み手数料の値上げの影響も考慮し、現状の1,000円/枚より3,000円/枚に4月1日より値上げしたいことを説明しました。特段の異議なく、了承されました。

## 2 容器包装3R推進のための自主行動計画2020フォローアップ報告 (2018年度実績)

- ・事業者として取り組む第3次自主行動計画（自主行動計画2020）の3年目となる2018年度の成果発表を、12月11日に経団連会館において、報道関係者に向け発表を行いました。報道39社（47名）の参加がありました。
- ・自主行動計画2020のリデュース目標を基準年度（2004年度）14%に対して、2018年度のリデュース実績は11.0%削減（前年度11.2%削減）しました。自主行動計画をスタートした2006年度からの累積削減量は、2,086千トン（前年度1,856千トン）、売上高を原単位としますと、基準年度（2004年度）比で18.7%削減（前年度18.2%削減）したことを報告しました。
- ・回収率の目標28%に対し、2018年度の回収率は27.0%（前年度24.5%）と報告しました。
- ・紙製容器包装に係る成果発表の内容は、添付したフォローアップ報告（2018年度実績）、及び経済産業省の説明資料を参照願いたいと思います（資料1、2）。

## 3 3R改善事例集第13版の完成

- ・総務委員会の活動として、会員の皆様の紙製容器包装の3R事例をご提供いただいて3R改善事例集を平成19年度より毎年発行しております。
- ・令和元年度は新しい3R改善事例の31件に加えて、平成28年度から平成30年度の3年間の3R改善事例を項目ごとにまとめて掲載いたしました。また容器包装3Rのための自主行動計画2020（3年目）のフォローアップ報告も掲載し、第13版を作成いたしました。
- ・本事例集は、事業者による紙製容器包装の3R改善の取り組みの内容や実績を、広く行政や一般の方々に理解してもらうことを一つの目的とし、「3R推進団体連絡会」の自主行動計画フォローアップ記者報告会（令和元年12月11日）及びフォーラム・展示会など市町村や市民団体との連携交流の場などで活用させていただいております。
- ・第13版は、12月上旬に会員の皆様に発送いたしました。追加をご希望の会員様は事務局までご連絡ください。送付の際、内容に関するアンケートも同封いたしましたが、ご意見、ご感想を是非とも事務局までお寄せください。次回以降の編集に向け参考とさせていただきます、有意義で充実したものにしていきたいと考えております。また、今回の制作に多くの方にご協力いただきました。改めて感謝を申し上げます。

#### 4 エコプロ2019への出展

- ・当推進協議会は連続15回目の出展となり、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の小間にガラスびん、PETボトル、プラスチック容器包装と協同で展示しました。
- ・今年度の入場者数は、15.6万人（前年16.2万人）となりました。
- ・今回の展示は、紙製容器包装のリサイクルルート、リサイクル手法をわかりやすく説明するパネル及び再商品化製品として板紙・紙箱及びRPF等を展示いたしました。
- ・また本展示会にて、3R改善事例集第13版と当推進協議会のパンフレット「紙製容器包装のリサイクルについて」を配布しました。前回同様に注目度が高く、メイン通路に面していたこともあり、配布物を自主的に持ち帰られる方が多かった状況でした。
- ・3R推進団体連絡会の活動として、3Rクイズラリーにも当推進協議会は副幹事として参画しました。

#### 5 中国古紙輸入規制の影響

- ・中国への古紙輸出量は2019年の夏以降で減少傾向となり、前年比で50%を下回る状況が続いています。国別の古紙輸出量で中国はいまだ1位ですが、その依存度は4割程度に落ち込んでいます。かわりに東南アジア地域の輸出量が増加し、ベトナム、台湾、インドネシア、タイの4ヵ国合計の伸び率は、前年同期比の4倍以上となりました。中国の古紙輸入量は2018年実績で1,703万トンでしたが、今年は約1,000万トン程度と見込まれ、2020年では600万トンとなり、最終的に2021年に輸入禁止になるとされています。
- ・これら中国古紙輸入動向の影響を受けて、国内では新聞及び段ボール古紙などが余剰し、本年8月の段ボール在庫量は前年同期比で3割増となりました。国内相場も昨年と比較し、段ボールが半分以下に、新聞は6割程度、雑誌も3/4程度に下落しました。
- ・中国の2021年古紙輸入禁止に向け、2020年の輸入ライセンスが大幅に削減されることが予想されています。

#### 〈別添資料〉

資料1 フォローアップ報告（2018年実績）より抜粋

資料2 経済産業省説明資料「資源循環政策について」

－以上－